

部門：研究・専門部門

活動団体名：栃工高国際ボランティアネットワーク

活動タイトル：地域と世界をつなぐ「空飛ぶ車いす」

本校では、明日の地域社会と世界に貢献できる「心豊かな技術者を目指して」を目標に、工業高校の特色を活かした活動を行っています。私たち工業高校生にできること、それはものづくり！

日本製車いすの特徴として、軽量さと丈夫さを兼ね備え、かつ高機能であることがあげられます。その品質の高い車いすも古くなると廃棄され、ごみと化し、その推計数は年間5万台を超えられます。

車いすの材料として、多く使われているスチールやアルミニウムのリサイクル率は90%以上と高い水準を維持しています。しかし、材料を熱で溶かしリサイクルを行うためには、多くの鉄鉱石や石炭、電気などが必要となります。

そこで私たちは、3Rのひとつであるリユースに着目し、日本ではごみとして捨てられてしまう古い車いすを修理し、再利用することでごみを減らし、枯渇性資源の節約と地球温暖化の緩和につなげたいと考えました。

アジア諸国では車いすを必要としながらも、その値段が高いことなどを理由に、車いすを利用できない人が数多くいます。そこで、修理した車いすを、必要とする人たちに送り、再利用してもらうことにしました。

中古の車いすを分解して、使えるものと使えないものとに分別、使える部品を組み合わせると約3台分の車いすで新たな車いすを1台完成させることができます。

1992年より、年に1度コンテナ船で車いすを送り、1999年からは航空会社や運送会社の協力も得られ、飛行機で送ることができました。この活動がメディアで紹介されると、全国の工業高校に広がりを見せ、全国85校がこの「空飛ぶ車いす」活動に参加するようになりました。

地域の方々の協力によって、多くの車いすを収集することができるようになり、校内のアルミ缶リサイクル活動で得た資金で、必要となる部品を購入し、さらには、支援団体から部品の援助が受けられるようになり、より多くの車いすを再利用してもらうことができるようになりました。

この活動内容を一人でも多くの人に知ってもらい、協力者を増やしていくため、様々な広報活動にも力を注いでいます。

これまでの成果として、この活動を26年にわたり継続させることで2,023台の車いすを世界に送ることができました。この活動を記した本や絵本が出版され、英語の教科書にも内容が採用されるなど、その成果が認められています。

1993年からはタイ王国にて同活動を24回実施してきました。古くなった車いすの収集、分解の様子や、壊れた車いすを修理し、再利用してもらっている様子が、地元のニュースでも取り上げられるなど、タイでもこの活動が広く知られるようになりました。2年前からは、現地タイの高校生と共にこの活動を行うことで、タイでの協力者も増え、将来的には世界中にこの活動が広がればよいと考えています。

これから私たちは環境への配慮ができる技術者を目指し、今後も楽しみながら、この活動を進めていくことで、より良い地球環境の実現につなげていきます。